

平成26年12月

佛乗寺檀信徒の皆さまへ

佛乗寺 住職 笠原 建道

講頭 廣田 正至

「門松や冥土の旅の一里塚 目出度くもあり目出度くもなし」とは、毎年今ごろになりますと耳にする言葉です。

言い得て妙だといえます。年が改まることは目出度い、その気持ちを松や梅や竹を飾った門松で表す。しかし、年が改まるということは、一步冥土に近づいたことであるから素直には喜ぶことが出来ない、という私たち凡夫の心情です。

そこで、宗祖日蓮大聖人様は、松野殿に宛てたお手紙で、
「とても此の身は徒に山野の土と成るべし。惜しみても何かせん。惜しむとも惜しみとぐべからず。人久しといえども百年には過ぎず。其の間の事は但一睡の夢ぞかし」と述べられます。

意は、やがて私たちの身は朽ち果てて山野の土に戻るのである。命が惜しいとあがいてもどうすることもできない。健康に留意して療養に努めたとしても永遠に生き続けることはできない。人は長生きしたとしても百歳を越えることはない。その間のことは、ひと眠りしたときにみる夢のようなものだ、というものです。さらに、

「世の中ものうからん時も今生の苦さへかなしし。況してや来世の苦をやと思し食しても南無妙法蓮華経と唱へ、悦ばしからん時も今生の喜びは夢の中の夢、靈山浄土の喜びこそ実の悦ひなれと思し食し合はせて又南無妙法蓮華経と唱へ、退転なく修行して最後臨終の時を待って御覽ぜよ」と続けられます。今日受ける苦しみや悲しみを、明日も同じように受けることがないように、南無妙法蓮華経と唱えようではありませんか。今日の楽しみに溺れることなく明日の楽しみを思って南無妙法蓮華経と唱えようではありませんか。そのようにしてお墓に入るときまで南無妙法蓮華経と唱えてご覧下さい、とご信心を勧めてくださるお言葉です。

このお言葉のように、私たちの信仰は、現世（今日）だけのためにするものではありません。来世（明日）を信じます。現世と来世は別々ではない、と大聖人様が仰せ下さることを信じて、南無妙法蓮華経と唱えます。

御本尊様に「現当二世」と御認め下さっておりますのは、現世（今日）と来世（明日）の二世つまり「二の世界」に御利益のある御本尊様だからです。

このことが心に入りますと、例え門松を冥土の旅への一里塚とみても、来世の幸せが約束されているのですから、「目出度くもなし」ではなく、「明るく楽しく朗らかに」正月を迎えることが出来ます。

『上野殿後家尼御返事』に曰わく

春のはじめ、御喜び花のごとくひらけ、月のごとくみたせ給ふべきよしうけ給はり了んぬ。

（御書・1552頁）

佛乗寺檀信徒の皆さまがよき年を迎えられますよう御祈念申し上げます。 以上